

平成23年度 地球環境基金
助成活動実績報告書

第 号
平成24年4月9日

独立行政法人環境再生保全機構

理事長 福井 光彦 殿

〒214-0031

住所 川崎市多摩区東生田 1-14-5 アムール K2 102 号室

団体名 一般社団法人あいあいネット

代表者氏名 代表理事 和田 信明 印

(海外口案件の場合) 〒 -

代理人住所

代理人氏名 印

平成 23年 7月 1日付環機地第1号により助成金の交付の決定を受けた助成活動の
実績について、地球環境基金助成金交付要綱第13条の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

活動名	インドネシア・西バリ国立公園における生物多様性と両立した生計向上の振興		
活動区分	① 国内の民間団体が行う開発途上地域の環境保全のための活動 ロ. 海外の民間団体が行う開発途上地域の環境保全のための活動 ハ. 国内の民間団体が行う国内の環境保全のための活動		
活動形態	① a. 実践 b. 知識の提供・普及啓発 c. 国際会議 d. 調査研究		
活動分野	① a. 自然保護・保全・復元 b. 森林保全・緑化 c. 砂漠化防止 d. 環境保全型農業等 e. 地球温暖化防止 f. 循環型社会形成 g. 大気・水・土壌環境保全 h. 総合環境教育 i. 総合環境保全活動 j. その他の環境保全活動		
対象地域	インドネシア、西バリ国立公園とその周辺村		
助成活動の概要（別紙その5-2「助成活動報告集用原稿」を参照）			
— 別紙 —			
(特記事項)			
担当者氏名 (及び所属部署・役職)	長畑 誠 (専務理事)	TEL	044-455-4508
		FAX	044-455-4508

※活動区分、活動形態及び活動分野は、交付申請書に基づき、いずれか1つに○を付すこと。

実績及び当初計画（交付申請書）との相違点

(1) 国立公園職員による、国立公園周辺村でのグループ育成、技術指導・助言活動

プジャラカン村に計 39 回、プリンビンサリ村に計 30 回、スンプルクランポック村に計 49 回、そしてギリマヌク村には計 46 回、それぞれ担当する国立公園職員のファシリテーターチームのメンバーが訪問し、村人とパートナーシップを構築した上で、自然資源の保全・保護と生計向上の両立する活動を、村人が主体となって行うようファシリテートしてきた。その結果、各村でそれぞれ村人が地域の資源を活かした活動を積極的に展開し始めている。（当初計画では 7 月～3 月に各村あたり週 1 回程度訪問）

(2) 国立公園職員を対象とした研修・セミナー

あいあいネット現地スタッフや講師、日本人専門家らによる公園職員 8 名を対象とした研修は、7 月、9 月、11 月、1 月、3 月の計 5 回、延べ 33 日間実施された。また研修時以外にも、あいあいネット現地スタッフが折に触れて公園職員への助言を行った。ファシリテーターとして村に関わる際に必要な理論や技術について学んでもらい、各村での活動展開の方向性や細かい留意点などを助言し、さらに環境教育やエコツーリズムについての手法を共に考えるワークショップも実施した。（当初計画では 3 回程度）

(3) 村人を対象としたセミナー・ワークショップ

国立公園周辺 4 村で、2011 年 12 月と 2012 年 2 月・3 月に合計 8 回のセミナー・ワークショップを実施しそれぞれ 15～30 名が参加した。主な内容としては、カンムリシロムク生息地整備、水資源保全、エコツーリズム振興、マングローブ保全、海草養殖と珊瑚移植、村の潜在可能性マッピング（あるものさがし）である。これらのワークショップを通じて、村人は新しい知識や考え方を身につけ、活動に活かしている。（当初計画は 4 回、各 20 名程度）

(4) 普及啓蒙のポスター製作

スンプルクランポック村において、まずカンムリシロムク生息地整備に関するセミナー・ワークショップを行い、その結果をもとに、村人主体で生息地整備と観光振興に向けた植樹マップが作成され、さらにポスターとなった。これはカンムリシロムク保護と生息地拡大のために村人の意識を高めるだけでなく、具体的な活動に多くの村人や外部者を巻き込むために活用されている。（当初計画通り）

目標に対する実績および進捗状況

平成 23 年度助成活動の目標に対する実績

<目標>

- ① スンプルクランポック村において、住民（約 100 名）を対象としたカンムリシロムクの生態や生息域に関する普及啓蒙を行い、理解が進む。
- ② 同村において、森林保全に向けた住民のグループ活動が促進される。
- ③ 国立公園周辺村のプリンビンサリ村やギリマヌク村において、住民グループによるエコツーリズム振興に向けた活動が開始されるとともに、国立公園の自然環境保全に関する住民の意識が向上する。
- ④ 周辺村の住民と関わる国立公園職員のファシリテーターとしての能力が向上する。

<実績>

- ① スンプルクランポック村では、カンムリシロムク生息地整備と観光振興を目的とした作業グループ（村行政と 6 つの住民組織及び関係する外部組織がメンバー）が結成され、村人全体（300 世帯）がカンムリシロムク保護に取り組む体制ができあがった。
- ② 同村の住民グループは、5 つの樹種、あわせて約 20 万本の植樹に向けた活動を開始している。
- ③ プリンビンサリ村では国立公園の自然を活用した観光振興のための委員会が、ギリマヌク村ではマングローブ保全や海草・珊瑚移植を行う漁民グループが活性化され、エコツーリズム振興と環境保全に向けた住民の活動が開始された。プジャラカン村でも自然保護に向けた住民の活動が始まりつつある。
- ④ これら周辺村における住民主体の活動をファシリテートしてきた、国立公園職員によるチーム 8 名はファシリテーションの原理と技術を確実に獲得しており、その能力は公園所長に認められ、さらなる展開を求められている。

助成活動において作成された成果物とその利用および配布状況

- (1) スンプルクランポック村におけるカンムリシロムク生息域整備及び観光振興に向けた計画ポスター：100 部製作。村内や周辺村及び国立公園で掲示されている。ポスターを使って植樹の必要性を村人がアピールし、このマップをもとに、村のリーダー層や関係団体が将来計画について話し合いを始めている。
- (2) 国立公園職員ファシリテーション・チームの活動記録報告書：10 部製作。公園職員が村人のイニシアティブをどのように引き出したか。その理論と実践が記述され、公園幹部及び本省幹部職員に配布された。

(1) 個別の活動の内容、結果及び効果の詳細

①個別の活動内容又は実施方法

国立公園周辺村でのグループ育成、技術指導・助言活動

②個別の活動の実施日（期間）および活動場所

<中間報告以降>2011年11月～2012年3月

プジャラカン村：18回（担当者：Juni Wahyono, I Made Mudana）

プリンビンサリ村：19回（担当者：Kuat Wahyudi）

スンプルクランポック村：23回（担当者：Nana Rukmana, I GBN Suranggana）

ギリマヌク村：25回（担当者：Sugiarto, IPG Arya Kusdyana, Ganda Diarsa Utara）

③個別の活動の対象者（参加者等）

国立公園職員（ファシリテーションチームのメンバー8名）、プジャラカン村（農民グループ **Karya Mandiri**）、プリンビンサリ村（観光振興委員会）、スンプルクランポック村（カンムリシロムク保護と生息地整備に取り組むグループ **Manuk Jegeg** と観光振興チーム）、ギリマヌク村（漁民グループ **Karang Sewu** 及び同 **Jaya Mandiri**）

④個別の活動の実施結果

プジャラカン村：これまでの国立公園職員による働きかけの結果、同村のバトゥアンパル集落において、家畜の餌を森林伐採によって得ることをやめるため、6名の村人が餌になる樹種の植樹活動を開始した。これを広げていくためには、電力ポンプが必要なため、国立公園側が電力会社と交渉を進めている。また、プジャラカン集落への職員の働きかけが開始された。

プリンビンサリ村：この村は全員がクリスチャンであり、バリ様式の教会があることで有名である。そのため、これまで村では宗教関連の観光客の受入をしてきたが、国立公園職員による働きかけの結果、村と公園との境界にあるグロジョガンの滝を入口としたトレッキングコースを整備し、国立公園の協力により村人のガイドも養成して、公園の自然を対象とした観光振興を目指すことになった。

スンプルクランポック村：バリ島の固有種で、絶滅危惧種でもあるカンムリシロムクの生息域に最も近いこの村では、カンムリシロムクが再び飛び交う村を目指して自然を再生させていく活動が、国立公園職員の働きかけによって、村人主体で開始された。

ギリマヌク村：貴重なマングローブが残る地域であり、国立公園職員の働きかけにより、2つの漁民グループが自然を守りながら収入を向上させていく活動を開始した。具体的には、棧橋の整備によるマングローブ観光の準備、海草の養殖や珊瑚の移植である。

⑤個別の活動の実施による成果及び効果等

プジャラカン村：村人グループは、国立公園との境界にある道路への植樹や苗圃作りを計画している。また別の集落（プジャラカン集落）では水資源の状況を把握する動きが始まった。

プリンビンサリ村：2011年12月、この村はバリ州で8つの観光村のうちの一つに選ばれ、州都デンパサールで開催された展示会に出展した。また県知事が村を訪れ、観光振興の拠点とすることを宣言した。

スンプルクランポック村：村人グループによって、カンムリシロムクの生息域として村を復活させるための植樹計画が策定された。またこの植樹をきっかけとして、観光振興を図るため、村の関係者を巻き込んだ観光振興委員会も結成された。

ギリマヌク村：漁民グループによる活動が活性化し、村人たちが主体的に活動に取り組んでいる。マングローブを守るための観光客への働きかけや、違法な漁法による自然破壊の防止にも取り組み始めている。

⑥その他特記事項（課題、改善点等）

国立公園職員によるファシリテーション・チームは、村に足繁く通い、村人とパートナーシップを構築し、村の課題を抽出してその解決にむけて村人のイニシアティブを引き出すことができた。それぞれの村で自然と共生した生計向上が少しずつ進みつつある。今後はこれらの活動に州や県政府を巻き込むとともに、村の開発計画にも位置づけ、さらに国立公園との協定を通じて継続的な協働関係を構築することが課題である。

(2) 個別の活動の内容、結果及び効果の詳細

①個別の活動内容又は実施方法

ファシリテーション技術や環境教育・エコツーリズムに関する国立公園職員を対象とした研修・セミナー

②個別の活動の実施日（期間）および活動場所

<中間報告以降>

2011年11月7日～11日（西部バリ国立公園事務所および周辺村）

2012年1月9日～13日（同上）

2012年3月8日～12日、14日（同上及びジャカルタ）

③個別の活動の対象者（参加者等）

国立公園職員（ファシリテーションチームのメンバー8名）。講師・ファシリテーターとして、あいあいネット現地コーディネーター1名、同現地専門講師1名、日本人専門家1名、同スタッフ。ジャカルタでは林業省自然保護森林保全総局の幹部職員

④個別の活動の実施結果

2011年11月：ファシリテーション能力向上研修

2012年1月：エコツーリズム振興に関する研修及びファシリテーション技法に関する振り返り

2012年3月：年間活動振り返りワークショップ、今後の活動計画策定、林業省本省での報告会

⑤個別の活動の実施による成果及び効果等

国立公園職員のファシリテーションチームは、あいあいネットの関係者による研修を通じて、村でのファシリテーションの実践を振り返り、村人のイニシアティブを引き出すために必要な技術を実践に身につけてきた。またそれぞれの村で課題となりつつあるエコツーリズムの振興についても、必要な知識を身につけてきた。そして2012年3月には、林業省本省（自然保護森林保全総局）において、ファシリテーション理論と実践及び村での成果を報告する会合を開催し、同省幹部に対して公園現場職員が自ら学び実践してきたことを伝えることができた。

⑥その他特記事項（課題、改善点等）

国立公園幹部は職員チームのファシリテーション能力を高く評価し、他の職員への能力育成と実践の拡大を期待している。また本省においても、この活動モデルを他の国立公園に広げていく可能性が話されている。この間の活動は報告書になり、関係者に配布されている。

(3) 個別の活動の内容、結果及び効果の詳細

①個別の活動内容又は実施方法

国立公園周辺村におけるセミナー・ワークショップ

②個別の活動の実施日（期間）および活動場所

プジャラカン村：2012年3月26日

ブリンビンサリ村：2011年12月14～15日、23・25日

スンブルクランポック村：2012年2月7日、15日、3月4日

ギリマヌク村：2011年12月11日～12日、3月4日

③個別の活動の対象者（参加者等）

プジャラカン村：プジャラカン集落の集落長や農民グループ、水利グループメンバー

ブリンビンサリ村：観光振興委員会のメンバー

スンブルクランポック村：Manuk Jegeg（カンムリシロムク保護のグループ）メンバー及び村の各種グループ・組織のリーダーたち

ギリマヌク村：漁民グループ Karang Sewu 及び同 Jaya Mandiri

<p>④個別の活動の実施結果 プジャラカン村：水資源に関するマッピングおよび水利グループ状況のシェア（3月26日） ブリンビンサリ村：デンパサールで開催される観光村展示会の準備のためのワークショップ（12月14・15日）、県知事による観光村宣言のセミナーとその準備（12月23・25日） スンブル克蘭ポック村：カンムリシロムク生息地整備と観光振興に向けたセミナー（2月7日）及びそのフォローアップとして村のリーダーたちとのシェア（2月15日&3月4日） ギリマヌク村：漁民グループによる栈橋竣工式（12月11日）、マングローブ保全・観光振興及び海草養殖に関するセミナー（12月12日）、村の潜在可能性マッピング（3月4日）</p>
<p>⑤個別の活動の実施による成果及び効果等 プジャラカン村：これまで動きがなかった同村プジャラカン集落で、特にこの村で将来的に大きな課題となる水資源の確保について、村人自身による活動が開始された。 ブリンビンサリ村：これまでの宗教関係の観光に加え、国立公園と協働してエコツーリズムを振興する動きが村人による観光振興委員会によって開始された。 スンブル克蘭ポック村：少数の村人によるカンムリシロムク保護の動きが、村全体を巻き込んで、植樹と村条例制定に向けて進みつつあり、生息地整備を通じた村のプロモーションに繋がってきた。2月7日のセミナー結果はインドネシア語で報告書を作成し、村人にも配布している。 ギリマヌク村：漁民グループは、このセミナーやワークショップを通じて、自分達にできることを積極的に行おうという機運が生まれ、具体的にマングローブ保全を通じた観光振興と、海の資源を守りながら生計を向上させるための活動（海草養殖や珊瑚の移植）が始まってきた。</p>
<p>⑥その他特記事項（課題、改善点等） 各村で活発な村人主体の活動が生まれてきた。今後はこれらに対して、国立公園側がタイムリーな支援を行っていくこと、特に他の公的リソース（県政府・州政府等）との連携や、村の公的政策の中に位置づけていけるよう、サポートしていくことが求められている。</p>
<p>（4）個別の活動の内容、結果及び効果の詳細</p>
<p>①個別の活動内容又は実施方法 カンムリシロムク保護や森林資源保全に関する普及啓蒙のポスター作成</p>
<p>②個別の活動の実施日（期間）および活動場所 2012年2月～3月 スンブル克蘭ポック村及びジャカルタ（ポスターのデザインと印刷）</p>
<p>③個別の活動の対象者（参加者等） スンブル克蘭ポック村住民グループ、村のリーダー達、村の各種団体、国立公園、村の訪問者</p>
<p>④個別の活動の実施結果 このポスターは、スンブル克蘭ポック村でカンムリシロムクの保全に取り組む住民グループ Manuk Jegog の活動を通じて、その活動をバックアップする目的で作成された。具体的には、カンムリシロムクの生息地として同村の自然環境を整備することを目指し、カンムリシロムクが好む環境を調査し、どこにどのような樹木を植えるかを計画していった。このワークショップの結果をもとに、植樹及び村の観光振興の計画を示した「より緑豊かで涼しい環境を目指して、木を植え、育てよう」と呼びかけるポスターを作成し、村人の意識向上を図るとともに、植樹への支援をアピールするツールとして使うことになった。</p>
<p>⑤個別の活動の実施による成果及び効果等 ポスターは100部作成し、村内や周辺村及び国立公園で掲示されている。ポスターを使って植樹の必要性を村人がアピールし、村を訪問した日本人等が募金をするケースも出ている。このポスター（マップ）をもとに、村のリーダー層や関係団体が将来計画について話し合いを始めており、村全体としてカンムリシロムク生息地拡大や観光振興に向けた動きが開始されている。</p>
<p>⑥その他特記事項（課題、改善点等） ワークショップを通じて作成されたポスターは単なる啓蒙のためだけではなく、村の将来計画に繋がる資料となっている。</p>